



持続可能性進捗状況報告書の概要

東京2020大会の持続可能性

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

気候変動
脱炭素社会の実現に向けて

資源管理
資源を一切ムダにしない

大気・水・緑・生物多様性等
自然共生都市の実現

人権・労働、公正な事業慣行等
多様性の祝祭

参加・協働、情報発信
パートナーシップによる大会づくり

調達物品の99%のリユース・リサイクルを実施

公共交通機関の活用

日本の木材活用リレー みんなで作る選手村ビレッジプラザ

GOAL

既存会場の活用

再生可能エネルギーの電力を100%活用

国連「ビジネスと人権に関する指導原則」への準拠

持続可能性に配慮した調達コード

都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト

燃料電池自動車等の活用

東京2020 アクセシビリティ・ガイドラインの策定

Medal Project

H₂

雨水の循環利用・都市と自然の共生

東京2020 参画プログラムを全国で展開

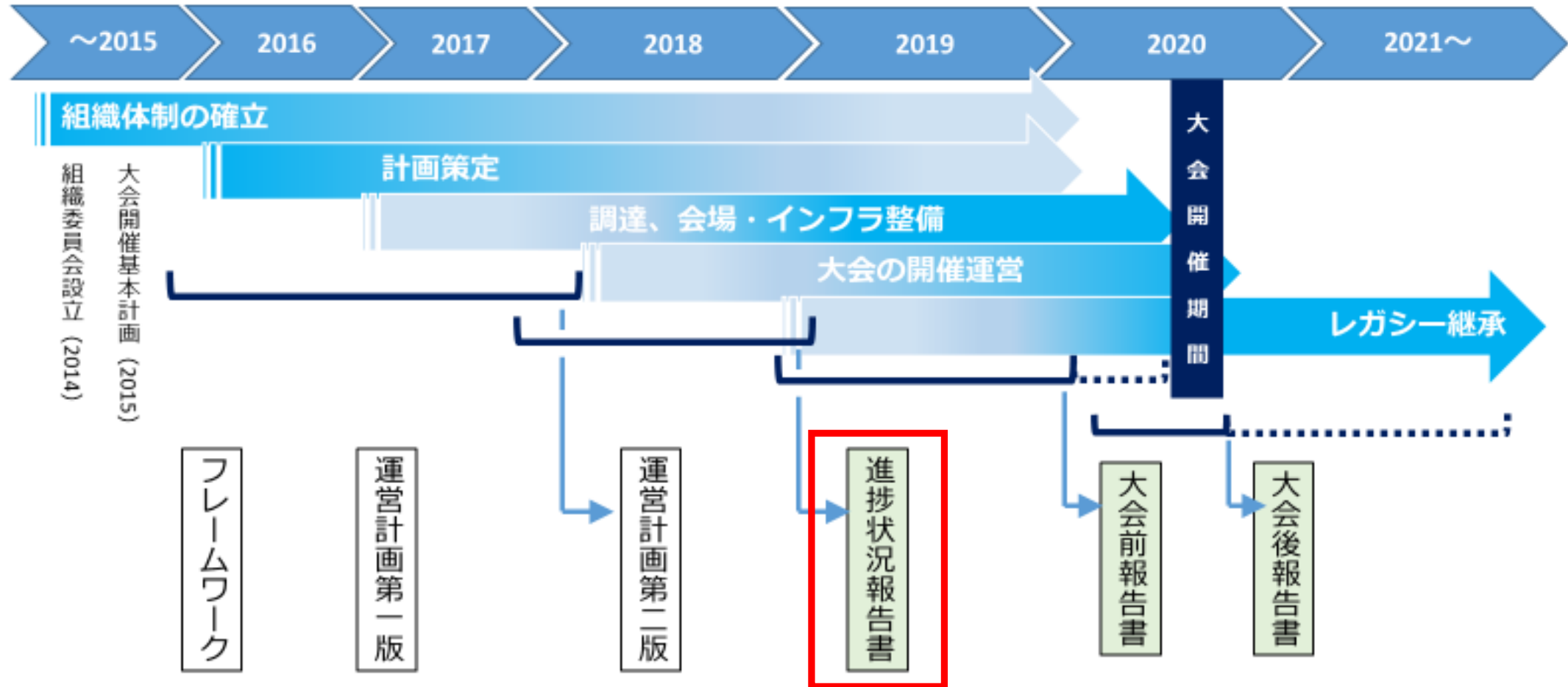
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

東京2020大会を通じて、世界共通の課題である国連「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献します。

イラストはあくまでイメージです。
公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

東京2020大会の持続可能性報告の体系

大会の準備・開催のフェーズに沿いながら、運営計画及び3つの報告書により大会の持続可能性の全体像を提示
進捗状況報告書は、2018年を中心に、運営計画の詳細化や調達及び会場・インフラ整備の進行状況を報告



持続可能性に配慮した運営計画／持続可能性報告書

持続可能性進捗状況報告書 目次

メッセージ

組織委員会 会長

組織委員会 事務総長

街づくり・持続可能性委員会 委員長

1. 基本理念及び本報告書の概要

1.1 持続可能性に配慮した大会に向けての基本理念

1.2 組織委員会及び大会関係者

1.3 本報告書について

2. 東京2020大会 持続可能性の主要テーマ

3. 組織体制

3.1 組織委員会：組織体制の変化

3.2 持続可能性マネジメントシステム

4. 主要テーマの進捗状況

4.1 気候変動

4.2 資源管理

4.3 大気・水・緑・生物多様性等

4.4 人権・労働、公正な事業慣行等

4.5 参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

5. 持続可能性に配慮した調達

6. 会場整備

7. 大会開催運営の準備

8. レガシー継承

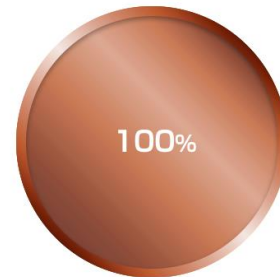
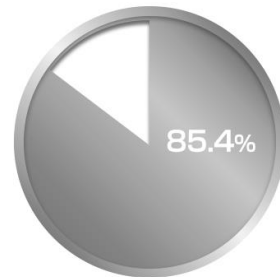
付録

みんなのメダルプロジェクト 必要な金属量を確保

- ・多くの方々からの協力により、回収を終了する2019年3月末までにメダルの製作に必要な金属量を確保する見込み
- ・全国で18,000箇所以上に回収ボックスが設置され、約9割の1,618自治体がプロジェクトに参加

金属の確保状況（2019年2月8日時点）

	確保済み金属量(A)	最終的な納入量 (目標) (B)	A / B
金	28.4kg	30.3kg	93.7%
銀	3,500kg	4,100kg	85.4%
銅	2,700kg	2,700kg	100%



金属納入式（2018年10月）



様々な団体がプロジェクトに協力



日本の木材活用リレー 全国63自治体が協力

- ・ 全国の自治体から無償で借り受けた木材を使用して選手村ビレッジプラザを建設し、大会後に解体された木材を各自治体で活用するプロジェクトに、日本全国の63自治体が協力



ビレッジプラザの将来イメージ図(パラリンピック時)/©Tokyo2020



全国の63自治体が参加



各自治体による伐採式の様子



国際機関等と連携し、SDGsにも貢献

- ・ディーセントワークの推進に関するILOとの覚書(2018年4月)
- ・SDGsの推進協力に関する国連との基本合意書(2018年11月)
- ・国連グローバル・コンパクトへの参加(2018年7月)
- ・国連気候変動枠組条約 Sports for Climate Action Frameworkへの参加 (2018年12月)



ILOとの協力



ILOと共催したフォーラム



東京2020大会を通じて、世界共通の課題である国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」に貢献します。



国連との基本合意書に署名

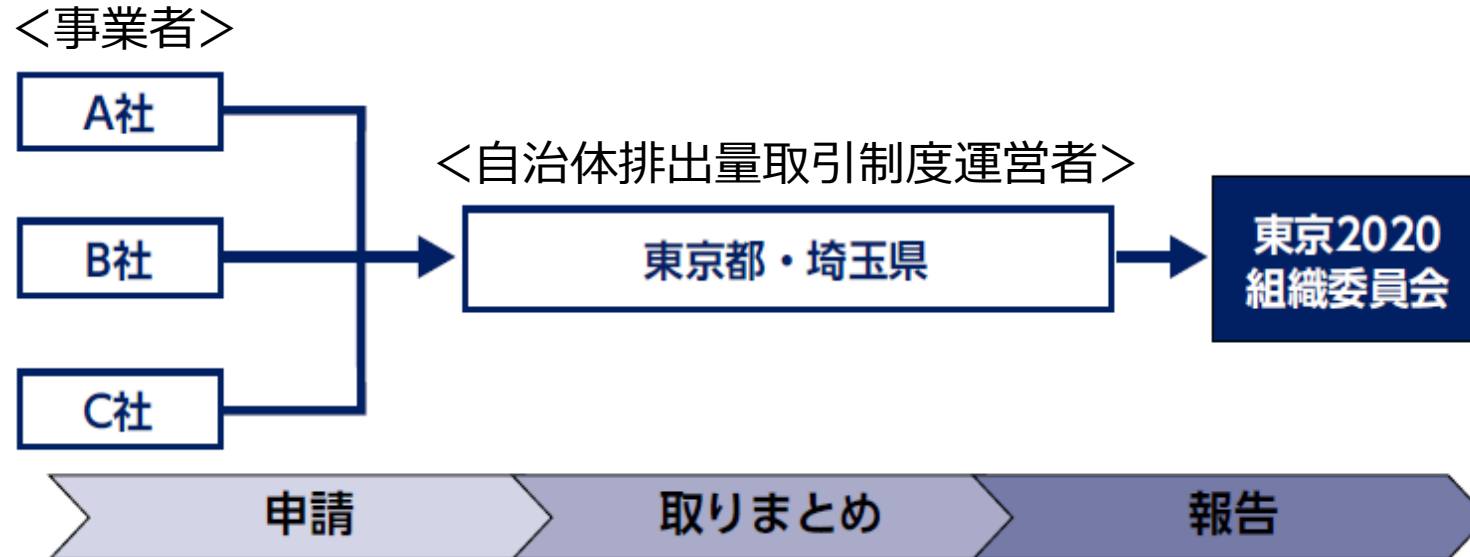


Sports for Climate Action Framework発表時の様子



多様な主体の参画によるCO₂のオフセットと削減の取組を開始

- ・大会で使用するCO₂のオフセットについて、東京都・埼玉県を通じて事業者への協力の呼びかけを開始（2018年7月）
- ・大会を契機とした、市民参加型のCO₂削減・吸収活動を促進（2018年7月）



自治体を通じた大会のカーボンオフセットへの参加の流れ

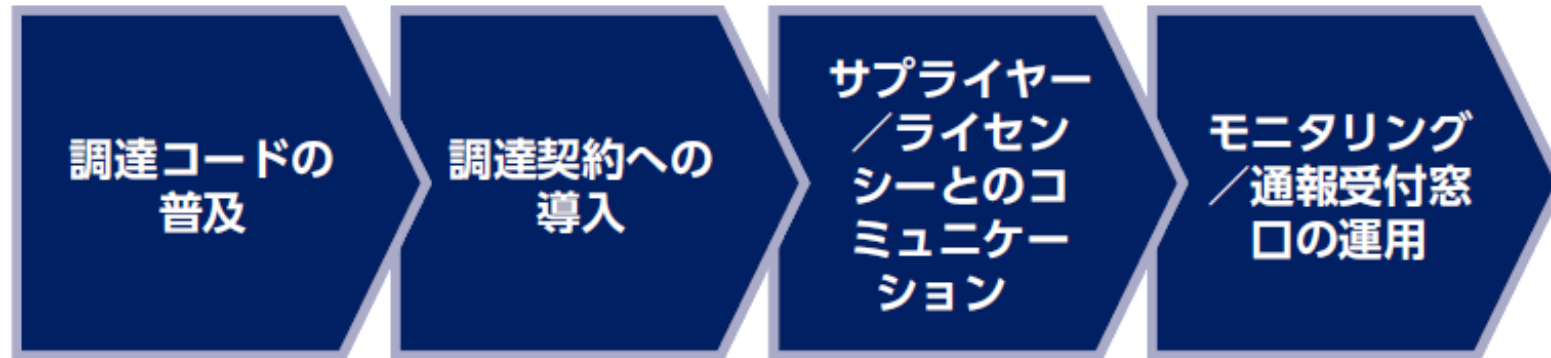


市民参加型のCO₂削減・吸収活動



持続可能性に配慮した調達への推進、国内における認証取得の拡大

- ・ 木材、農・畜・水産物に加え、紙・パーム油の個別調達基準を策定（2018年6月）
- ・ 「持続可能性に配慮した調達コード」の不遵守に関する通報受付窓口を開設（2018年4月）
- ・ 調達基準の策定後、国内の持続可能性に関する認証取得が増加



「持続可能性に配慮した調達コード」の実施状況

東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020）組織委員会

調達コードに係る通報受付窓口のご案内

通報受付窓口とは・・・
○ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会における調達コードの不遵守にお気づきの際、また不遵守によりお困りの際に誰でもご連絡いただける窓口です。
○ 通報受付窓口では、皆様から調達コードの不遵守についての通報を受け付け、当事者間の対話を促進するなど、解決に向けて必要な対応を実施いたします。

- 通報受付期間： 2018年4月2日～2020年11月30日
- 受付の対象案件： 東京2020組織委員会が調達する物品・サービス及びライセンス商品に関する案件
- 受付可能な言語： 日本語もしくは英語

通報受付窓口

通報はメールまたは郵送で受け付けています。

e-mail宛先：[grievance\(at\)suscode.tokyo2020.jp](mailto:grievance(at)suscode.tokyo2020.jp)
郵送先：〒163-1011
東京都新宿区西新宿三丁目7番1号 新宿パークタワー11階
（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
総務局 持続可能性部

※メール送信の際は(at)を@に置き換えてご利用ください。
※郵送先は変更となる場合がありますので、郵送にあたっては以下のウェブサイトにて最新の情報をご確認ください。

+ 通報に必要な情報：
通報者（あなた）の氏名、住所、連絡先（被通報者に対して匿名にすることができます。）
被通報者（調達コード不遵守の企業、個人）及び不遵守の内容に関する情報
東京2020組織委員会が調達する物品・サービス及びライセンス商品に関する情報 など

※以下のウェブサイトにて通報フォームをご用意しております。
※通報いただいた概要や処理手続きの状況などについて、東京2020組織委員会ウェブサイトに掲載いたします。情報公開を望まない場合には、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

詳細は、東京2020組織委員会「持続可能性に配慮した調達コード」のウェブサイト
<https://tokyo2020.org/jp/games/sustainability/sus-code/> をご覧ください。

通報受付窓口を
周知する資料の配布

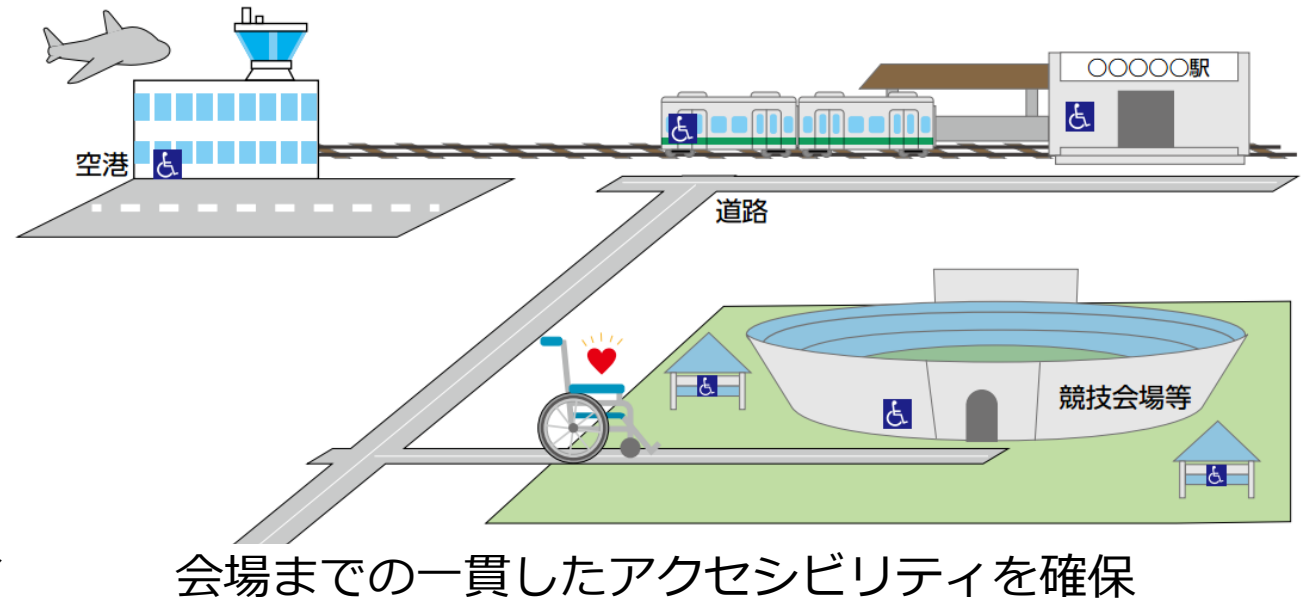


競技会場における高い環境性能とアクセシビリティの確保

- ・ CASBEE（建築環境総合性能評価システム、新規恒久3会場）、東京都建築物環境計画書制度（新規恒久7会場）の最高評価を達成予定
- ・ 太陽光発電、太陽熱利用、地中熱利用等の再生可能エネルギー設備やBEMSを積極的に導入
- ・ 「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」等に準じたアクセシビリティの確保



新規恒久会場への省エネ設備・再エネ設備の導入
(武蔵野の森総合スポーツプラザ)





ダイバーシティ&インクルージョン (D&I) の推進

- ・ 幹部と職員による「D&I宣言」 (2018年12月) をはじめ、職員がD&Iへの賛同を表明できる仕組みを構築
- ・ 職場のセクシュアル・マイノリティへの取組を評価する「PRIDE指標」において「シルバー」・「ベストプラクティス」を受賞 (2018年10月)



Tokyo 2020 promotes
Diversity & Inclusion

Know Differences, Show Differences

「D&Iステッカー」による職員的意思表明



幹部と職員による「D&I宣言」への署名

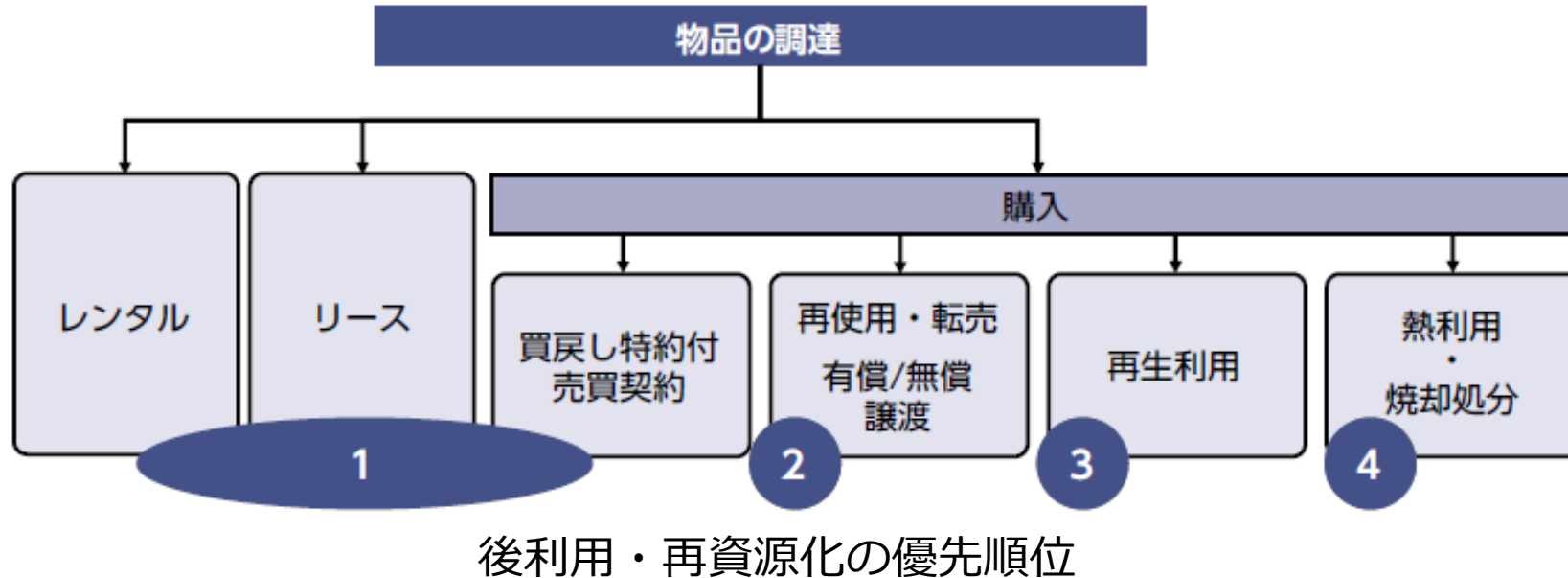


「PRIDE指標」における受賞



調達物品の後利用・再資源化に向けた取組の本格化

- ・ 持続可能性の観点も含め、適切に財産の管理と処分を進めるための「財産管理処分規程」を策定（2018年12月）
- ・ リースの活用により資源の有効利用とコスト削減の両立に向けた取組を実施



仮設会場等における
レンタル又はリースの活用

大会開催に向けて

- ・ 2019年は、計画段階から、各会場を中心とした大会の運営段階へ移行
- ・ 今後も持続可能性の取組に関する進捗状況や成果、課題などを次回以降の報告書により報告
- ・ 持続可能性の取組を、大会にとどまらず、その先の日本・世界に繋げていく

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

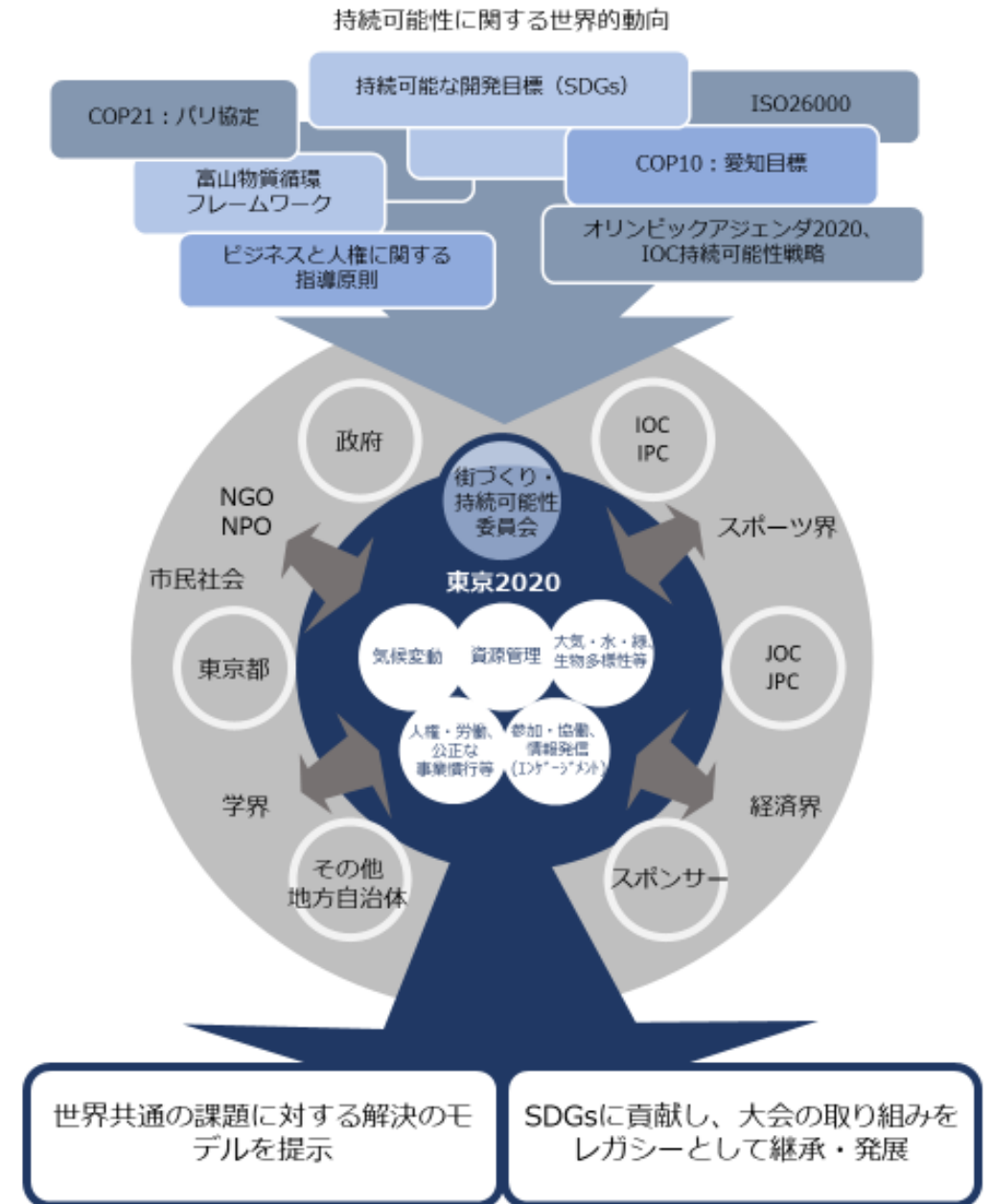
持続可能性進捗状況報告書 各項目の概要

本報告書について

- ・ 持続可能性報告の国際的基準であるGRIスタンダードの中核オプションに準拠
- ・ 東京2020組織委員会の取組のほか、大会関係者の重要な取組や、関係が深い取組事例も報告
- ・ マテリアリティ（重要課題）の選定にあたっては、大会準備の早い段階から、「街づくり・持続可能性委員会」における議論を元に、5つの主要テーマを選定

持続可能性マネジメントシステム

- ・ イベントの持続可能性をサポートするための国際規格であるISO20121に則したマネジメントシステムを導入
- ・ 持続可能性に配慮した運営方針・計画を策定
- ・ 各部署に持続可能性の責任者・担当者を設置
- ・ 会議や研修を通じて持続可能性の重要性を組織内に浸透



主な取組状況

- ・ **環境負荷の少ない輸送**
 - 燃料電池自動車やプラグインハイブリッド自動車などの低公害・低燃費車両の導入を検討
 - TDM（交通需要マネジメント）の実施に向けて、「2020TDM推進プロジェクト」が発足
- ・ **資源の有効活用によるCO₂削減対策と効果**
 - オーバーレイ物品の新規購入を回避し、レンタル等を利用する場合、その物品調達によるCO₂排出量を8割程度削減
- ・ **再生可能エネルギー**
 - 「東京2020大会の再エネ電気」の考え方を整理
 - 都内の7恒久会場に新規に再エネ設備を建設（太陽光約513kW、太陽熱約462kW、地中熱約1,523MJ）
 - 福島県内の再生可能エネルギー由来水素実証施設で製造された水素の活用を検討
- ・ **カーボンオフセットと市民によるCO₂削減・吸収活動**
 - 東京都・埼玉県の協力を得たオフセットの実施
- ・ **国連気候変動枠組条約 Sports for Climate Action Frameworkへの参加**
 - スポーツに関わる気候変動対策の重要性を示し、各参加団体と協同で気候変動対策に貢献

主な取組状況

- ・ **容器包装等の削減**
 - 簡易な容器包装等・再生利用のし易さ及び廃棄時の環境負荷低減への配慮等を求めた調達
 - リユース可能な食器の導入や、各競技会場のスタッフ向け弁当容器の仕様や廃棄物処理の3Rを検討
- ・ **調達物品の再使用・再生利用（目標：再使用・再生利用率99%）**
 - 物品等の調達の本格化を前に、「後利用・再資源化ガイドライン(方針編)」を策定
 - 「財産管理処分規程」の策定や、アセット・トラッキングシステムの導入により、調達物品を統合的に管理
 - 再使用に配慮した調達方法として、リースや買取保証を活用
- ・ **運営時廃棄物の再使用・再生利用（目標：再使用・再生利用率65%）**
 - 分かりやすいピクトグラムを表示等による分別の促進に向けた検討
 - 大会で消費されたペットボトルを再びペットボトルに循環利用する水平リサイクルの検討

大気・水・緑・生物多様性等 : City within Nature/Nature within the City (自然共生都市の実現)

主な取組状況

・暑さ対策

- 大会の「暑さ対策の基本的な考え方」において、観客・ワークフォース・アスリートの観点から、取組のモデルケースを策定
- 国、東京都と連携しながら、暑さ対策グッズの配布やWEB・モバイルアプリによる暑さ対策情報の発信、クールシェアの推進、競技時間の変更等の具体的な取組の検討・実施

・都市における水循環機能の向上

- 会場の水質安定化に向けて、お台場海浜公園の水質水温調査や水中スクリーン実験を実施
- 国や東京都において、皇居外苑濠の水質改善や河川・海等へ放流される汚濁負荷量の削減等を実施

・緑化、生物多様性

- 競技会場の整備において、既存樹木を極力保存するとともに、移植や在来種を用いた植樹を実施
- カヌー・スラロームセンターに隣接する葛西海浜公園のラムサール条約湿地登録

・大会における生物多様性等に配慮した資源の消費

- 国や東京都において、農林水産業におけるGAPの実施や認証取得等の拡大に向けた支援等を実施

人権・労働、公正な事業慣行等

: Celebrating Diversity – Inspiring Inclusive Games For Everyone
(多様性の祝祭 ～ 誰もが主役の開かれた大会)

主な取組状況

- ・ **差別の排除とダイバーシティ&インクルージョン (D&I)**
 - D&Iの観点を重視した大会の準備・運営を行うため、「D&I戦略」を策定
 - 職員の具体的なアクションをまとめた「D&Iハンドブック」の作成、新規着任者研修や管理職研修の実施
 - 幹部と職員による「D&I宣言」の実施、職員一人ひとりがD&I賛同の意思を表明できる「D&Iステッカー」の作成
- ・ **アクセシビリティの確保**
 - 国や東京都、公共交通機関等と連携し、空港や駅からの一貫したアクセシビリティを確保
- ・ **公正な事業慣行等の配慮方策**
 - コンプライアンス研修、調達コードの普及啓発を通じたサプライチェーンへの働きかけ
- ・ **人権相談窓口**
 - 「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、日常業務における職員向け窓口を設置するとともに、大会時の競技会場における人権・労働等の問題を把握する体制や、ガイドラインの作成等を検討

参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

: United in Partnership & Equality – Inspiring Inclusive Games For Everyone
(パートナーシップによる大会づくり～誰もが主役の開かれた大会)

主な取組状況

- ・ **様々な主体との連携・協働による大会準備・運営の推進**
 - ILOと覚書を締結し、フォーラムの開催などの協力活動を実施
 - 「国連グローバル・コンパクト」への参加、国連とSDGsの推進協力に関する基本合意書に署名
- ・ **人材育成を通じた幅広い参加の創出**
 - 東京都では「オリンピック・パラリンピック教育」において環境教育や障がい者理解を推進
- ・ **国民参加型プロジェクト等の実施を通じた幅広い参加の創出**
 - 「みんなのメダルプロジェクト」では、多くの関係者の協力により、必要な金属量を確保する見込み
 - 東京2020参画プログラムでは、持続可能性を含む8つのテーマの下、9万件以上のアクションを認証
 - 東京2020教育プログラムでは、パラリンピックを題材とした共生社会の学びを含む、オリンピック・パラリンピック教育のための教材を作成・配布

主な取組状況

・調達コードの実施状況

- 調達コードに関する事業者の理解・取組を促進するため、調達コードの解説やQ&Aを作成
- 組織委員会の調達の仕様書及び契約書に調達コードの遵守を記載
- チェックリストの提出やヒアリング等により、サプライヤーやライセンシーの取組状況を把握
- コンクリート型枠合板の調達状況を半年ごとに公表。型枠合板について、東京都と共同で現地調査を実施
- 通報受付窓口の運用を開始するとともに、多言語の窓口周知用の資料を作成

・木材の調達基準の改定

- ①森林減少に由来する木材の使用抑制、②追加的なリスク低減措置の推奨、を盛り込んだ改定を実施

・東京都や政府機関等への働きかけ

- 東京都及びJSCは、大会関連の調達において、通報受付窓口の設置も含めて調達コードを尊重

・調達コードと連動した動き

- 木材及び農・畜・水産物の調達基準策定の前後で、国内において持続可能性に関する認証取得が増加

主な取組状況

・恒久会場の整備

- 建設発生土の有効利用率99%以上、建設廃棄物の再資源化・縮減率99%以上を達成予定
- 3会場においてCASBEE（建築環境総合性能評価システム）の最高ランクのSを達成予定
- 7会場において東京都建築物環境計画書制度の最高評価の段階3を達成予定

・仮設会場等・オーバーレイの整備

- テント、プレハブ等については、レンタル・リースを前提とするなど、可能な限り再使用・再生利用

・選手村の整備

- CASBEE –街区のSランク認証や、環境認証制度LEEDの街づくり部門「ND」のGOLD認証の取得
- ビレッジプラザの整備に関し、全国から借用した国産木材を用いて建築し、大会後には各地で活用いただく「日本の木材活用リレー」に63自治体が参加

・アクセシビリティの確保

- 「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」等に準じ、来場者のアクセシビリティを確保